

## 平成27年度 第1回 大阪府動物由来感染症対策審議会

■日時：平成27年8月10日（月）14:00～16:00

■場所：大阪府立公衆衛生研究所4階講堂

■出席者（敬称略）：

氏名	所属・職
小崎 俊司	公立大学法人 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 名誉教授
宮川 松剛	一般社団法人 大阪府医師会 理事
佐伯 潤	公益社団法人 大阪府獣医師会 会長
細井戸 大成	公益社団法人 大阪市獣医師会 会長
吉村 高尚	大阪市保健所 所長
松岡 太郎	豊中市保健所 所長
山崎 眞理江	堺市保健所 所長
高野 正子	高槻市保健所 所長
松本 小百合	東大阪市保健所 所長
笹井 康典	枚方市保健所 所長
鳥居 幸子	大阪府市長会 代表
堀野 喜弘	大阪府町村長会 代表
福島 俊也	大阪府健康医療部保健医療室 室長
柴田 敏之	大阪府健康医療部保健医療室医療対策課 課長
齋藤 浩一	大阪府健康医療部食の安全推進課 課長
山形 三津留	大阪府健康医療部環境衛生課 課長
西池 公男	大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課 課長
山本 祥二	大阪府家畜保健衛生所 所長
松浦 玲子	大阪府保健所長会 代表
久米田 裕子	大阪府立公衆衛生研究所細菌課 課長
加瀬 哲男	大阪府立公衆衛生研究所感染症部 部長

欠席者（敬称略）

氏名	所属・職
久留飛 克明	大阪府立箕面公園昆虫館 館長

### ■会議の成立

「大阪府動物由来感染症対策審議会規則」第5条第2項に規定される定足数（委員の過半数）を満たしており、有効に成立している。（委員数：22名。出席者：21名、欠席者：1名。）

## ■議事内容

### 1 「平成27年度サーベイランス実施状況の概要について」

- ・狂犬病について、動物管理指導所各分室に抑留、引き取り、または収容された犬のうち、抑留期間中に死亡、または譲渡不備・不相当となったものを対象に検査をする。これは下半期、9月からを予定。家畜保健衛生所で採材をして、そして大阪府立公衆衛生研究所で検査を実施する予定。
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病（BSE）について、家畜保健衛生所において24カ月令以上の死亡牛の検査を実施していたが、今年から48カ月令以上の死亡牛を検査することとなった。

### 2 「蚊が媒介する感染症のサーベイランス検査の結果について」

#### ウエストナイル熱サーベイランス結果報告

- ・府内15ヶ所にて蚊を捕集・検査を実施し、今年は現在2回行ったが、649匹採集した。検査は、全て陰性。蚊の種類としてはヒトスジシマカとアカイエカ群が大半を占めている。サーベイランスを実施して以来、傾向は変わらない。
- ・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市においても同時期に、蚊の捕集・検査を実施したが、全て陰性であった。

### 3 「動物（家きん）における鳥インフルエンザに関するサーベイランス検査の結果について」

- ・世界及びアジアでの高病原性・低病原性鳥インフルエンザ発生状況について報告。アメリカ、ヨーロッパ、アジアを含め、数多く発生している。昨年との違いは、台湾において、夏場においても発生が続いていることである。
- ・定点モニタリングとして、毎月1回インフルエンザウイルス検査及び抗体検査及び臨床検査を実施予定。
- ・強化モニタリング検査として、府内の養鶏農家全戸及び小規模の使用施設などを対象に夏場に、抗体検査と臨床検査を実施予定。
- ・水禽類のモニタリングについては糞便検査を、今年は4月と5月、11月から3月の間で、月1回、合計7回実施予定。4月、5月で、10カ所91検体を採材した。ウイルス分析はすべて陰性であった。
- ・死亡野鳥の検査については、今年度はまだ、検体はない。
- ・鳥インフルエンザA亜型の人への感染事例について報告。鳥インフルエンザA（H5N1）は、昨年、エジプトにおいて多くの患者の発生が見られている。鳥インフルエンザA（H7N9）は、平成25年に初めて中国においての感染があったが、その後、冬場に患者の増加がみられる。患者の発生は、ほとんどが中国本土である。日本において8月現在、患者の報告はない。

### 4 「アライグマに関するサーベイランス検査の結果について」

- ・アライグマ防除実施計画に基づき、府内3箇所、動物一時保護センターと家畜保健衛生所及び南部支援施設で収容されたアライグマ（尿と血液）を検体とし、検査を実施する。
- ・レプトスピラ症については、30検体中、全て陰性。（7月15日現在）
- ・トキソプラズマ症については、30検体中3検体、陽性。（7月15日現在）
- ・Q熱と日本紅斑熱の調査については、33検体中、全て陰性。（7月15日現在）。

## 5 「犬の狂犬病モニタリング」について

- ・日本においては50年以上発生がないものの、世界的には確認されていない国はわずか数か国である。日本同様、50年以上発生がなかった台湾において昨年度、野生動物のイタチアナグマから狂犬病ウイルスが検出されたとの発表があった。
- ・厚生労働省から、各自治体に対し、監視体制の強化するよう協力依頼があり、これを受け、疑い事例に加え、症状の有無にかかわらず収容動物等について、モニタリング検査を実施する。9月から実施予定。

## 6 「その他のサーベイランス結果について」

- ・牛の腸管出血性大腸菌については、糞便を136頭検査し、全て陰性。また、枝肉を131頭検査し、全て陰性。
- ・豚における日本脳炎について、血清を用い検査を実施。40頭検査し、2頭陽性。
- ・豚におけるトキソプラズマ症について、血清を用い検査を実施。50頭検査し、全て陰性。

## 7 「動物由来感染症疾患報告数」

- ・腸管出血性大腸菌症においては全国1465例、大阪では262例報告。その中でO157が約7割を占めており、O26、O111、O121、O128、O152などが検出されている。焼肉等生食の喫食のあったものが12例。
- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、30例の報告があり。平成26年においては、61例の報告があり、今年度、京都府、三重県、福岡県、香川県で初の患者報告があった。大阪府での発生はない。
- ・デング熱は全国で131例、大阪府で11例報告があった。チクングニア熱は全国で11例、大阪府における報告はなかった。デング熱、チクングニア熱ともに、いずれも海外で感染した輸入例であった。

## 8 その他の動物由来感染症対策に関する事項等について

### 「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について」

- ・7月14日現在で、全国で142名の報告あり。うち44名が死亡。

### 「中東呼吸器症候群（MERS）について」

- ・今年5月に韓国における、輸入症例の患者の発生し、その後、院内感染が起こり、患者が増えた、感染者186名、うち死者36名となる事例となった。すでに韓国においては事実上の終息宣言がなされている。
- ・MERSは、7月21日現在で、患者数は1368人。（内、死亡者490人）発生状況は、中東諸国が多い。

「蚊媒介感染症について」

- ・昨年薬70年ぶりに国内感染事例が発生した件をうけ、4月に「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」が施行、「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き 地方公共団体向け」が策定された。国、都道府県、市町村、また、個人個人が日頃から、蚊の発生源対策をとることが求められている。
- ・大阪府として、蚊が倍加する感染症発生時に蚊の駆除体制の充実を図るため、蚊の駆除業務等に係る協定を大阪府ペストコントロール協会と締結。（平成27年8月）

「大阪府動物由来感染症対策審議会等、感染症対策審議会の再編について」

- ・各感染症の種類ごとに設置している審議会について、見直しを検討している。輸入感染症などの国内発生に備えるため、また、これまでの感染症対策に対し総合的に検討していく審議会を創設することを検討している。